

「桜の樹」 ニュースレター vol13

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2022.7



「人生邂逅」～「非連続性の連続性」～

樋野興夫 順天堂大学 名誉教授

新渡戸記念中野総合病院・新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園 理事長

筆者の故郷【当時の住所名：島根県簸川郡大社町鶴峠（うど）、現在は、島根県出雲市大社町鶴峠】は無医村であり、幼年期、熱を出しては今は亡き母（96歳で逝去）に背負われて、隣の村（鷺浦；さぎうら）の診療所に行った体験が、脳裏に焼き付いている。そして、人生3歳にして、医者になろうと思った。

母校の鶴鷺（うさぎ）小学校（鶴峠と鷺浦の中間に位置する）の卒業式で、来賓が言った言葉「ボーイズ・ビー・アンビシャス」（boys be ambitious）は、札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク（1826-1886）が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。もちろん、当時の筆者は、クラークのことも札幌農学校のことも知らず、クラーク精神が内村鑑三（1861-1930）、新渡戸稲造（1862-1933 という後に、筆者の尊敬する2人を生んだことも知らぬまま、ただ、鶴鷺小学校の卒業式で、来賓が言った言葉の響きに胸が染み入り、ぽっと希望が灯るような思いであったものである。これが筆者の原点であり、英文で書かれた『代表的日本人』（内村鑑三）&『武士道』（新渡戸稲造）は、若き日からの座右の書である。筆者は、2007年から、内村鑑三『代表的日本人』と新渡戸稲造『武士道』の読書会を毎月行っている。そして、そして19歳の時から、南原繁（1889-1974）、矢内原忠雄（1893-1961）に繋がった。筆者は、現在「南原繁研究会」の第3代目の代表を仰せつかっている。「人生邂逅」は「非連続性の連続性」である。

1933年3月3日に三陸で地震の大災害があったと記されている。その時、新渡戸稲造は被災地宮古市等沿岸部を視察したとのことである。その惨状を目の当たりにした新渡戸稲造は「Union is Power」（協調・協力こそが力なり）と当時の青年に語ったと言われている。まさに、今にも生きる言葉である。



2021.7.10



2021.11.13



2022.3.19

「よき先生、よき友、よき読書。人生の三大邂逅」 樋野興夫先生著 「病気は人生の夏休み」より

巣鴨カフェ「桜」は、7月で3周年。カフェはまさにこの3つがそろった場所でした。

肺がん、乳がんを経験し、治療が難しくなったときに樋野先生に出会い巣鴨のカフェをはじめました。カフェを通してたくさんのお会いにめぐまれました。毎回のカフェでは、樋野先生の本を朗読した後、グループにわかれ互いの人生や経験に学び合う、対話の時をもちます。このニュースレターなどを通し、皆さんから様々な本を紹介していただいたこともありました。今回もカフェで出会った方々が原稿を寄せて下さっています。

お家のお掃除。 ミニオン

探し物。あれー。何処に置いたっけ。きっとある。捨てるはずがない。忘れた頃 何かの作業をしてとき見つかる。

「やっぱりあった」「こんなところにあった」私は良くあります。

「整理整頓したい」と無印商品などで片付けるボックスなどを買ってくるのですが 買って満足。後でやろう。なんて。置きっぱなし。がまた散らかってしまう。

先日 片付けるテクニック講座に行ってきました。その一つを伝授。

まず 机の引き出しの一つを全部だします。

○□使う物

○□使わない物

使う物だけを引き出しの中に入れる。

そーするとキレイな引き出しを見て何時も喜びが生まれる。使う物。

使わない物。あまり考えず分けてる脳を養う。かなりハードルが高いなー。と思いました。

皆さんの住んでいる場所のお家賃はいくらですか。いらぬ物を置くスペースもお家賃が発生しているのです。そう考えるとスッカリのお部屋は気持ちいい。お部屋を広く使える。

余談ですが きっと後で使う。もったいないから。まだキレイだから。沢山ありませんか。「もったいないないお化け」でてませんか。



「もったいないお化け」 決死隊

昭和の風景。 ミニオン

今日は阿佐ヶ谷散歩でした。

得意げに大きなスイカを八百屋さんで買っていたおにいさんがいた。お店の外まで持ってお客様に。阿佐ヶ谷で銀座のブティック待遇をみた。(笑 笑)

大きなスイカを買ってみたい。大きなオケに水いっぱいにして冷やして皆で美味しいねって。 昭和の風景かな。

こうして、お散歩の様子もユーモア交えて伝えて下さるミニオンです



～年代別の「役割」を胸に刻んでおく～

樋野興夫先生ご著書「生きる力を引き出す寄り添い方」より

20代、30代は人に言われたことを黙々とがむしゃらにやります。

40代になったら自分のやりたいことや好きなことに専念します。

50代になったら積極的に周りの人の面倒を見ます。

60代になっても自分のことしか考えていなかったら恥と思え

★3月に樋野先生が巣鴨でお話して下さいました★



次のページは、埼玉県にある羽生・がん哲学外来カフェで出会ったいたがきさんにいただいたメールです。許可を得て掲載させていただきました。羽生のカフェでは、毎回いたがきさんが、絵本の読み聞かせをして下さる時間があり、私を含め参加者の皆さんが楽しみにしています。

山本さま

お変わりありませんか。以下はわたしの小さな通信に毎回つける「便り」です。暇つぶしになれば幸いです。

☆☆☆☆☆☆

お変わりございませんか。

子どもの絵本の読み聞かせは、受けた経験もした経験もありませんでした。ゼロから始めた教会の傍ら、生活のために補習塾をしていたので帰宅が遅く、息子たちにもできませんでした。

しかし教会で子どもたちとの合同の礼拝で、ある絵本を元にお話ししたところ、その日の聖書と共鳴して好評？だったので、それ以来お世話になってきました。

絵本の世界には門外漢で図書館の児童書コーナーで偶然のように良い絵本にであってきました。

素人なのですが、今関わっている『ガン哲学カフェ』という集まりの常連になって（主催者が古い友人で）、コーヒーブレイクの時に絵本を一冊読み、勝手な感想を述べたりしています。

『ガン哲』はガン（に限りませんが）病気とつきあう仲間の集まりで、各地にあり情報交換もしています。

この間（のあいだ）集会の帰りに電車と一緒にあった女性Yさん、わたしの息子よりも若く、肺がんで片肺はなくし週3回は通院していますが、ご自身も巣鴨で『ガン哲』を開いています。

生きてきて今が一番幸せ、と語っていました。

現役時代、開放的だった教会でわたしはアルコールや薬物の依存者の自助グループの方々とよく出会っていました。

そのグループでの人間関係が自分のアイデンティティになっているという方もいました。「であう」という「できごと」がありますね。

その日は宮澤賢治の『よだかのほし』（もともとは絵本ではありません）と佐野洋子『おれはねこだぜ』をとりあげました。

「よだか」はみにくい鳥でみんなに馬鹿にされ自己肯定感が低いのですが、そんな自分が、毎日虫たちのいのちを奪って生きている、この現実には身震いし「飢えて死のう」と考え、実行します。

「ねこ」のほうは大好物のさばのいのちを奪って生き延びている自分に、負い目と恐怖を覚えつつ、それでも「じょうだん じゃないぜ おれはねこだぜ」と開き直ってさばを食い生きてゆきます。

Yさんはこう言われたのです。自分は自己肯定感が生まれにくい環境で生きてきたとおもう…絵本や絵本の読み聞かせなど経験してこなかった…

自分が幼い頃経験できなかったこと、誰かに絵本を読んでもらうということが、今できている、うれしい。

わたしも、呼吸器の持病が長く77歳の咳き込み爺さんですが、ふと幼い頃、まだテレビが遠い時代に憧れた街角の紙芝居屋になれたかと、不思議なうれしさがありました。

絵本の内容とは別に、ここで今、絵本を挟んで成り立っている「できごと」には、言葉になる前のちからがあるんですね。これも「絵」本の力ですね。

核禁止条約は核兵器を違法としますが、初めての条約締約国会議（6月21～23日 ウィーン）があります。日本は加盟を否定しています。新聞記事で若者がウィーンに行く、と発言していました。

核戦争のタブーが破れかねない今こそ**「核廃絶、軍縮を考えるチャンス」**というのです。

戦後、お題目のように唱えられてきた言葉が、今精彩を放つのは、ウクライナの映像とともに悲惨なことなのですが、地球や人類の「明日」の悲劇ををあきらめないで、「じょうだん じゃないぜ」今することがあるぜ、と考える若者もいる！

小さな希望が「できごと」になって何かを起こす。わたしが紙芝居屋さんになれたように。

この時代に、さばを食わざるを得ない「ねこ」としてうまれている以上、その「ねこ」としてできることがあるのでしょ。だれにだって！

「飢えて死のう」とおもわずに。 いたがき

一花開天下春

May

さくら様、スタッフの皆様

岡倉天心記念 巣鴨カフェ「桜」3周年、おめでとう、そしてありがとう!!!と心から申し上げたいと思います。2021年夏、友人と千葉方面で新たにカフェを開くことになりました。そして見学で訪れたカフェの一つが巣鴨カフェでした。正直、驚きと感動、このカフェの大ファンに即りました。樋野先生からは「からっぽの器を用意するように!」と言われていましたが、巣鴨カフェはそのヒントをたくさん与えてくれました。巣鴨カフェは私にとって「お茶室」のような存在。陰での入念な準備の上に亭主(カフェ)と客(参加者)の一期一会があります。そんな桜亭!でお茶の代わりに言葉を交わすひと時は、世の重荷を下ろすひと時です。ああ・・・早くコロナが終息して、お茶も飲めるといいですね!

一花開天下春

一輪の花が咲いて天下が春になる、という意味ですが、お茶の世界ではこの禅の言葉を「一人の人間があらわれることで、世界が救われるよ、幸せになるよ」と理解するそうです。2018年の夏に一人の女性の覚悟で開かれた巣鴨カフェがどれだけ多くの人を癒し、勇気づけてきたのでしょうか。これからもきっとそうありますように!



Mayさんの娘さんのデザイン
ケロケロチェリーフロツサム

編集後記 さくら(かえる)

3年間たくさんの出会いと学びの時をいただけてきました。カフェをはじめていなければなかったであろう出会いや経験。たくさんの個性に支えていただいて今があることに感謝申し上げます。

最初に肺がんになってから26年、「目下の急務はただ忍耐あるのみ」という時間を長く過ごしてきました。「このままでは終わりたいくない!」という魂の叫びを感じながら、もがいていた日々の苦しみは、がん哲学外来と出会い希望に変わりました。治療が難しくなり、看護師という仕事を継続していくことも難しくなっていた私ですが、月に1回カフェを開くという役割を与えられ、こうして皆さんと過ごす時間は、たとえ身体がきつくても充実しています。それまで歩んできた一つ一つが今につながっているようで、魂の喜びを感じることができるようになりました。生きてきて今が一番幸せです。

先日開催された第11回がん哲学外来コーディネータ養成講座、第10回がん哲学外来市民学会栃木大会のテーマは「ひとの心に贈り物を残していく」でした。『他者への贈り物は遺された人の人生を豊かに膨らませる。よりよい贈り物を残す為、自分は「今」いかに生きるかを考えることは、自分への贈り物となる』ということを学びました。

今私は幸せだけでも、ひとの心に贈り物を残していくことができるのだろうか・・・

巣鴨カフェ「桜」4年目、そうしたことも皆さんと過ごす貴重な時間の中で、考えていけたらと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。



巣鴨のホームページでも情報をのせています。6月のカフェで参加者の皆さんが書いて下さった短冊を動画にしてお紹介しています

<https://sugamo-sakura.com/>



編集：岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 山本 ひろみ

gantetu_sakura@yahoo.co.jp

後援：一般社団法人がん哲学外来